

楽しい!
家庭菜園

野菜だより 特別編集
GAKKEN MOOK

有機・無農薬

野菜がすくすく育つ!

おいしい野菜ができる 安心肥料

増補
改訂版

有機肥料の使い方がよくわかる!

はじめてでも失敗しない!
34品種の野菜別
有機肥料の与え方

トマト・ナス・キュウリ・ピーマン
ジャガイモ・トウモロコシ・ダイコン
ハクサイ・キャベツ など



有機・無農薬

おいしい野菜ができる

安心肥料

【増補改訂版】

野菜だより特別編集

Gakken Mook

2012年9月10日 第1刷発行

発行人

河上清

編集人

鈴木昌子

統括編集長

関根真司

発行所

株式会社学研パブリッシング

〒141-8412 東京都品川区西五反田2-11-8

発売元

株式会社学研マーケティング

〒141-8415 東京都品川区西五反田2-11-8

印刷所

共同印刷株式会社

編集長

椎原豊

編集

株式会社たねまき舎（島田忠重、安藤由紀子、美藤優紀子、志村明美）

デザイン

高島直人（株式会社ドモン・マインズ）、株式会社ブエノ、jt-airline

写真

鈴木忍、片山博文、株式会社たねまき舎

イラスト

長岡伸行、イラストメーカーズ



◎この本に関する各種お問い合わせ先

【電話の場合】

○この本の編集内容については

編集部直通 03-6431-1520

○在庫、不良品（落丁、乱丁など）については

販売部直通 03-6431-1205

【文書の場合】

〒141-8418 東京都品川区西五反田2-11-8

学研お客様センター「有機・無農薬 おいしい野菜ができる安心肥料 増補改訂版」係

◎この本以外の学研商品に関するお問い合わせ先は下記まで。

学研お客様センター 03-6431-1002

©Gakken Publishing 2012 Printed in Japan

本書の無断転載、複製、複写（コピー）、翻訳を禁じます。

本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用であっても、著作権法上、認められておりません。

※学研の書籍・雑誌についての新刊情報・詳細情報は、下記をご覧ください。

学研出版サイト <http://hon.gakken.co.jp/>

この本は学研ムック「おいしい野菜ができる 安心肥料」（2009年弊社刊）に情報を追加したものです。



有機肥料を知ればいっそう楽しくなる家庭菜園 4

有機肥料がはじめてから分かる Q&A 6

家庭菜園の達人たちの畑を訪問!

有機で育つ いきいき野菜 12

01 野菜を観察し、あれこれせずにシンプルに育てる 14

02 野菜に合わせて、3タイプのボカシ肥料を手づくりする 16

03 少なめの元肥でスタートして追肥で補っていくのがコツ 18

04 液肥を水やり感覚で与えるのがコンテナ栽培成功のコツ 20

05 ほんのわずかな肥料でもおいしい野菜が収穫できる 22

有機肥料を知ろう 24

チッソ 25 カリウム 27 油かす 29 骨粉 31 草木灰 33 ボカシ肥料 34

リン酸 26 米ぬか 28 発酵鶏ふん 30 有機石灰 32 魚粉 33

家庭菜園の達人たちに聞く オリジナルボカシ肥料のつくり方 36

ボカシ肥料をつくるための発酵菌いろいろ 38 液肥 40

家庭菜園の達人たちに聞く オリジナル液肥のつくり方 41

肥料で失敗しないコツのコツ

じょうずな肥料の与え方 44

与えすぎは NG、適量を野菜から離れた場所に施すのが基本 45

肥料を施す前にやっておくこと「堆肥で土づくり」 46

元肥① 48 元肥② 50 追肥① 51 追肥② 52

野菜別 肥料使いのポイント 53

トマト 54 ズッキーニ 59 ソラマメ 64 キャベツ 69 ネギ 74 ラディッシュ 79 ジャガイモ 84

ナス 55 スイカ 60 エンドウ 65 ハクサイ 70 タマネギ 75 カブ 80 サツマイモ 85

ピーマン 56 オクラ 61 インゲン 66 ブロッコリー 71 アスパラガス 76 ゴボウ 81 サトイモ 86

キュウリ 57 イチゴ 62 ラッカセイ 67 ホウレンソウ 72 ニラ 77 ニんじん 82 ヤーコン 87

カボチャ 58 エダマメ 63 トウモロコシ 68 レタス 73 ダイコン 78 ニんニク 83

「連作障害」を防いで、野菜を丈夫に育てる工夫 88

01 完熟堆肥をすき込んで微生物が豊富に棲む土づくりをする 89

02 微生物資材を活用して強力&スピード改良、障害を抑える 90

03 米ぬかとマルチを利用し、太陽熱で土壌を消毒。病虫害の根を断つ 91

少ない肥料でおいしい野菜が育つ

健康な畑のつくり方 92

有機肥料と土づくり資材 108

楽しい!
家庭菜園

野菜だより 特別編集
GAKKEN MOOK

有機・無農薬

野菜がすくすく育つ!

おいしい野菜ができる 安心肥料

増補
改訂版

有機肥料の使い方がよくわかる!

はじめてでも失敗しない!
34品種の野菜別
有機肥料の与え方

岡山大学図書
蔵書章

トマト・ナス・キュウリ・ピーマン
ジャガイモ・トウモロコシ・ダイコン
ハクサイ・キャベツ など

元肥と追肥の
与え方のポイント

ボカシ肥料のつくり方

連作障害を防ぎ、
病が出ない畑づくり



有機・無農薬**おいしい野菜が
できる
安心肥料****[増補改訂版]****有機栽培での肥料の使い方を
元肥・追肥ごとに徹底解説!****楽しい!
家庭菜園**

ISBN978-4-05-606646-3

C9476 ¥1143E

雑誌62563-36

㊤ロングセラー

GAKKEN 1860664600

定価: 本体1,143円

※税が別に加算されます。



9784056066463



1929476011435



有機肥料を知ればいっそう楽しくなる家庭菜園 4

有機肥料がはじめてから分かる Q&A 6

家庭菜園の達人たちの畑を訪問!

有機で育つ いきいき野菜 12

01 野菜を観察し、あれこれせずにシンプルに育てる 14

02 野菜に合わせて、3タイプのボカシ肥料を手づくりする 16

03 少なめの元肥でスタートして追肥で補っていくのがコツ 18

04 液肥を水やり感覚で与えるのがコンテナ栽培成功のコツ 20

05 ほんのわずかな肥料でもおいしい野菜が収穫できる 22

有機肥料を知ろう 24

チッソ 25 カリウム 27 油かす 29 骨粉 31 草木灰 33 ボカシ肥料 34

リン酸 26 米ぬか 28 発酵鶏ふん 30 有機石灰 32 魚粉 33

家庭菜園の達人たちに聞く オリジナルボカシ肥料のつくり方 36

ボカシ肥料をつくるための発酵菌いろいろ 38 液肥 40

家庭菜園の達人たちに聞く オリジナル液肥のつくり方 41

肥料で失敗しないコツのコツ

じょうずな肥料の与え方 44

与えすぎは NG、適量を野菜から離れた場所に施すのが基本 45

肥料を施す前にやっておくこと「堆肥で土づくり」 46

元肥① 48 元肥② 50 追肥① 51 追肥② 52

野菜別 肥料使いのポイント 53

トマト 54 ズッキーニ 59 ソラマメ 64 キャベツ 69 ネギ 74 ラディッシュ 79 ジャガイモ 84

ナス 55 スイカ 60 エンドウ 65 ハクサイ 70 タマネギ 75 カブ 80 サツマイモ 85

ピーマン 56 オクラ 61 インゲン 66 ブロッコリー 71 アスパラガス 76 ゴボウ 81 サトイモ 86

キュウリ 57 イチゴ 62 ラッカセイ 67 ホウレンソウ 72 ニラ 77 ニんじん 82 ヤーコン 87

カボチャ 58 エダマメ 63 トウモロコシ 68 レタス 73 ダイコン 78 ニんニク 83

「連作障害」を防いで、野菜を丈夫に育てる工夫 88

01 完熟堆肥をすき込んで微生物が豊富に棲む土づくりをする 89

02 微生物資材を活用して強力&スピード改良、障害を抑える 90

03 米ぬかとマルチを利用し、太陽熱で土壌を消毒。病虫害の根を断つ 91

少ない肥料でおいしい野菜が育つ

健康な畑のつくり方 92

有機肥料と土づくり資材 108



↑まえがき

有機肥料を知れば いっそう楽しくなる家庭菜園

ホ

ウレンソウの肥料には油かす。でもトマトの

肥料は、油かすに骨粉を少し混ぜて使うといいのだそう。

ホウレンソウは、葉を収穫

するので「チッソ」が豊富な油かすが合い、トマトは実を収穫するので、「リン酸」が豊富な骨粉を少々ブレンドするらしい。これで、甘くておいしいトマトが育つ。

こんなふうに、家庭菜園のベテランたちは、野菜の性格に肥料の特徴を照らして、ベストマッチの肥料使いを工夫して、野菜を育てている。

ホームセンターや種苗店で入手できる有機肥料は、数多くある。発酵鶏ふん、発酵油かす、魚粉、骨粉、有機石灰、有機の液肥もある。

はじめは誰しも、どうやって使い分けたらいいのかと悩むが、肥料の特徴を知ってしまえば、意外と簡単なことだと気づくはず。

そして実践してみれば、工夫次第で去年よりもずっと甘くておいしいトマトを育てられることがすぐに分かる。肥料使用のおもしろいところだ。

家庭菜園のベテランたちは、楽しい試行錯誤を繰り返しながら、有機肥料と付き合ってきた人たちがばかり。本書では、そんな家庭菜園家たち8人の、とっておきのアイデアをふんだんに紹介。ぜひ野菜づくりに役立ててほしい。

有機肥料を知って、肥料と野菜の相性を想像しながら、畑しごとを楽しもう。





有

機・無農薬で野菜づくりを続けている畑では、次第に、使用する肥料の量が少なくて済むようになっていく。これは、家庭菜園のベテランたちに共通していることだ。野菜の種類によっても、肥料を与えなくてもちゃんと育ってくれるから不思議だ。

これは、毎年堆肥をすき込んで、有機肥料を施していることで、土が少しずつ肥沃な土へと育つため。

団粒構造が発達した土は、フカフカとやわらかく、しっかりととして、よい香りがする。菌類をはじめ大小の微生物が棲む、野菜が育つのにふさわしい土だ。こうした畑の土が

らは、きれいな野菜が採れる。病気に悩まされることも、年々少なくなる。

害虫が目立たなくなるのも、有機・無農薬栽培を続けている畑の特徴だ。そのかわり畑に一步踏み込むと、クモがワッと動き出す。天敵虫が多く棲む、小さな生態系のような畑になる。こうなると、害虫が大発生して野菜が全滅することは、まずない。

堆肥と有機肥料を使い、おいしく安心な野菜づくりを楽しむながら、小宇宙のような畑をつくれるのは、家庭菜園ならではの楽しみだ。そして採れたて野菜を前にして、有機肥料の底力を実感しよう。

本書にご協力いただいた 家庭菜園家のみなさん

千葉県松戸市 町山宏元さん
東京都板橋区 安藤康夫さん
東京都練馬区 福田俊さん
長野県小川村 下藺千登世さん
愛知県小牧市 波多野典代さん
滋賀県長浜市 植松寿子さん
兵庫県太子町 井原英子さん
奈良県橿原市 田中寿恭さん



有機肥料が はじめから分かる！

Q &

有機栽培で利用する肥料には、どんなものがあるのだろうか？
畑への施し方や、施す量など、有機栽培ならではの、覚えておきたい基本の基本をおさらいしておこう。

Q1 有機肥料には どんなものがありますか？

A 米ぬか、油かす、骨粉、
有機石灰などいろいろ。
単独、または組み合わせ
て使います。

肥料は、野菜が育つために必要な栄養を畑に補給するものです。肥料には化成肥料と有機肥料がありますが、有機栽培で用いるのは有機肥料です。

家庭菜園でよく使われる有機肥料には、米ぬか、油かす、鶏ふん、骨粉、有機石灰、草木灰などがあります。これらの有機肥料には、野菜が育つのに必要な主要

な栄養である、チッソ、リン酸、カリウム（以上が3要素）、マグネシウム、カルシウム（この二つを加えて5要素と呼びます）などが含まれています。

肥料の種類によって、含まれる要素の比率は異なります。たとえば、米ぬかは、チッソ、リン酸、カリウムを比較的バランスよく含み、多くの野菜を育てることができます。また、油かすは、チッソ分が多いので、葉物野菜を育てるのに向いています。トマトやナスなどの果菜類を育てる場合には、リン酸を多く含む骨粉を少々し加えて使うとよく育ちます。

こんなふうに、それぞれの肥料の特徴を生かして、野菜づくりに利用することになります。各肥料の特徴は、28ページから紹介します。



有機肥料は、ホームセンターや園芸店で購入できる。米ぬかは、お米屋さんで分けてもらうこともできる。

Q2 有機肥料を使うときの一番のポイントは何ですか？

A 微生物が豊富に棲む団粒構造の土をつくること。有機肥料の効き目がよく表れます。

野菜は、米ぬかや油かすなどの有機肥料をそのままの形で吸収することはできません。吸収するのは、有機肥料が土の中で、さまざまな微生物によって充分に分解されてからです。

ですから、有機肥料で野菜を育てようとするなら、畑の土を、微生物が豊富に棲む土にしておく必要があります。

堆肥を畑にすき込んで多種多様の微生物を増やす

堆肥たいひを畑にすき込むと、土中の微生物を増やすことができます。すき込まれた堆肥をエサに、菌類、トビムシ、ミミズなど、さまざまな生き物が土の中で活発に活動を始めます。

このときに微生物が分泌する粘液によって、土の粒々がくっついて微小な団子状だんりょうこうぞうになります。この状態を「団粒構造」といい、野菜づくりに適した理想的な状態の土です（写真下）。



野菜の植え付け前、堆肥を畑にすき込んで、土づくりをしよう。

団粒構造の土は、微生物の格好の棲み家です。ここに施された有機肥料は、さまざまな微生物によってゆっくりと分解され、野菜に吸収されていきます。

さて、団粒構造が発達した畑の土は、水はけがよく、その一方で、水分を蓄える力も強いという特徴を持っています。余分な雨は流し、雨のない時は蓄えた水分を野菜の根に与えます。また、通気性もいので、根に酸素を充分に供給することができま。さらに団粒構造の土は、肥料分をキャッチしておく力も強いので、肥料の効きすぎや、肥料切れの心配が少ないことも大きな特徴です。

堆肥をすき込む土づくりの方法は、46ページから紹介します。

水はけ、保水性、通気性、保肥力に優れる団粒構造の土



この通りホロリと崩れる。しっとり湿り気があって、空気を含んでいる状態の土だ。



塊を指で押してみる。表面が固くしまった感じが、さらに力を入れてみると…



団粒構造が発達した土。手に取るとフカフカした感触で、握るとキュッと塊になる。

Q3 野菜によって有機肥料の種類や量は変わりますか？

A 葉菜、根菜、果菜で種類を変え、栽培期間の長短で量を変えるのが上手な使い方です。

野菜の種類によって、有機肥料の種類を選び、与える量を加減するのが、野菜を上手に育てるポイントになります。

量については、おおまかに言えば、トマトやナスなど栽培期間が長い野菜の場合は、肥料を多めに与え、途中で肥料が切れないようにします。逆に、ホウレンソウやコマツナなど栽培期間が短い野菜の場合には、肥料は少なめで足りります。

また、サツマイモ、エダマメのように、肥料（チッソ分）が多いと枝葉ばかりが茂って、実の付きが悪くなる野菜もあります。これらの野菜は、土づくりをしっかり行っておけば、ほとんど肥料を与えなくてもよく育ちます。

52ページから、家庭菜園で育てられる代表的な野菜36種について、肥料の施し方を具体的に紹介するので、参考にしてください。

野菜のタイプによって
欲しがる肥料分が異なる

野菜のタイプに合わせて、与える栄養のバランスを変えると、上手に育てることができます。チッソ、リン酸、カリウムの割合を、葉菜類、果菜類、根菜類で加減します。

まず、チッソ分はすべての野菜が必要とする要素です。ホウレンソウやコマツナなど葉を育てて収穫する野菜には、

チッソ中心の肥料で育てます。

トマトやナスなど実を収穫する野菜なら、リン酸をちょっと多めに与えるとうまく育ち、ダイコン、ニンジンなど根を太らせて収穫する野菜なら、カリウムをちよつと多めにする、という具合です。

3要素のバランスがよいのが、米ぬか、発酵鶏ふんです。油かすはチッソ分が豊富です。リン酸の補給には骨粉を、カリウムの補給には草木灰が使えます。よく利用される有機肥料の特徴は28ページを参考にしてください。

また、これらの有機肥料をブレンドしてオリジナルの「ボカシ肥料」をつくることができます。



ジャガイモの植え付け時に、発酵鶏ふんを施す。バランスがよい肥料で、リン酸、カリウムを豊富に含んでいる。

Q4 ボカシ肥料って どんなものですか？

A 米ぬかなどの有機肥料を
発酵させたものです。

土中で速やかに分解さ
れ、効き出しが早いのが
特徴です。

畑に施してすぐに効き出す化成肥料と
違って、米ぬかや油かすなどの有機肥料
は、肥料としての効き目が表れるまでに
時間がかかります。これは、有機肥料が
微生物によって分解されるのに時間がか
かるからです。気温（地温）が低い時は、
いっそう長く時間がかかります。

**有機肥料はタネまきの
2週間以上前に畑に施す**

効き出すまでのタイムラグを考慮して、
これらの有機肥料を畑に施すのは、タネ
まきや苗を植え付ける日の、少なくとも
2週間前までに行うようにします。

また、ナスやトマトなど生育期間の長
い野菜の場合、途中で肥料を追加（追肥）
しながら育てることがありますが、これ
には効き目の遅い肥料は向きです。野
菜が栄養を欲しがっている時に、ジャス

トタイミングで栄養を与えることができ
ないからです。有機肥料の中で追肥に向
いているのは、発酵鶏ふんなど効き出し
が早い肥料です。

**ボカシ肥料は効き出しが早く
効果が長続きする万能肥料**

さて、ボカシ肥料ですが、これは米ぬ
かや油かすなど数種類の有機肥料を材料
に、発酵菌と水を加えて発酵させた肥料
です。発酵させてあるために、畑に施し
た後の分解が速やかで、肥料の効果が早
く出るのが特徴です。しかも、肥料効果
がゆっくりと穏やかに持続するという、
有機肥料ならではの特徴をあわせ持つて
います。

元肥に利用するほか、効き出しが早い
ので、追肥にも使える万能肥料です。

ボカシ肥料は手づくりすることができ、
家庭菜園でも、ボカシ肥料でおいしい野
菜を育てている人がたくさんいます。米
ぬか、油かす、魚粉などをブレンドして、
栄養のバランスのいいオリジナル肥料を
つくれます。つくり方は、34ページから
紹介します。



ボカシ肥料を生ゴミに振りかけて発酵を促進させて、液肥を採取する（40ページ）。ボカシ肥料には、畑に施す以外の利用方もある。



発泡スチロールの箱やポリバケツの中で、手軽につくることができる。オリジナルブレンドのボカシ肥料で、甘い野菜を育ててみよう。

Q5 堆肥にも肥料分があるのでしょ

A 堆肥は、肥料とは別物です。堆肥には肥料分はほとんどありません。ただ、肥料効果のある堆肥をつくることもできます。

堆肥は、落ち葉やワラ、牛ふんなどの有機物を、微生物によって充分に発酵、分解させたものです。

堆肥は、畑の土を、野菜づくりに向いた土に改良するための資材で、肥料とは別のもの。堆肥の中には肥料分は含まれず、入っていてもほんのわずかです。

園芸店やホームセンターの園芸コーナーに行くと、何種類かの堆肥が売られています。落ち葉が主原料の腐葉土、樹皮が主原料のバーク堆肥、牛ふんが主原料の牛ふん堆肥などがありますが、これらのうちどれを使ってもかまいません。畑に堆肥をすき込んでおくと、微生物が増えて、やがて土は団粒化します。

堆肥には肥料分がほとんどないので、野菜の植え付け前には、畑に肥料を施しておく必要があります。ただ、堆肥のうち、鶏ふん堆肥は肥料効果が高いので、

もし利用するなら、土壌改良に使うより、肥料として使います。

また、購入の際には、「完熟」あるいは「発酵済み」などと表示されたものを選びます。未熟な堆肥を畑に入れると、野菜にダメージを与えることがあります。

落ち葉や生ゴミを利用して簡単に堆肥を手づくりできる

落ち葉、ワラ、野菜の残さ、生ゴミなどの有機物を材料にして、堆肥を手づくりしている家庭菜園家がたくさんいます。つくり方は簡単。有機物を堆肥枠の中に積んで寝かしておけば、微生物が分解してくれて、自然に堆肥になります。有機物を積み込むときに、少量の米ぬかを振りかけて水をまいておくと、微生物が爆発的に増えるので、分解が促されます。

有機物を積み込むたびに、米ぬか、鶏ふん、油かすなどの有機肥料を振りかけておけば、肥料効果のある堆肥をつくることができます。充分に寝かし、香りも手触りも土のようになったら、畑に施します。肥料効果のある堆肥を使う場合は、肥料は若干少なめに施します。



生ゴミをコンポストに入れて堆肥づくり。半年～1年で完成。



ナラやクヌギの落ち葉に米ぬかを振り、水分をたっぷり与えて仕込む。半年～1年寝かせて完成。



樹皮を発酵、分解したバーク堆肥。フカフカとした土のようになるまで、完熟したものを使う。

Q6 肥料を与えすぎると、野菜によくないと聞きましたか？

A 効きすぎると根が傷んで野菜が弱ります。控え目に与えるか、元肥と追肥に分けて与えます。

肥料をたっぷり与えれば野菜がよく育つというのは間違いです。

有機肥料は穏やかに効く肥料とはいえ、多肥は禁物です。根の近くに肥料分が多くあると、肥料焼けといって、根が枯れてしまうことがあるからです。これは、浸透圧で根から水分が奪われるためです。

また、チッソ分が多いと、アブラムシ



有機石灰は土壌の酸性度を調節するので、畝全面にまいてすき込む。カルシウム補給にもなる。

やヨトウムシが野菜に集まってきて、病虫害被害が多発します。肥料は適量を守って施すのがポイントになります。

栽培期間が長く、肥料を多く欲しがる野菜は分割して施肥

トマトやナスなど、栽培期間が100日を超す野菜は、それだけたくさん肥料を欲しがります。とはいえ、多量の肥料を一度に施すと、肥料が効きすぎる心配があります。

こうした野菜を育てる場合には、植え付け前に肥料の半量を施しておき、あと



ソラマメの株間に発酵油かすを少量埋めた。追肥も、株から離れた場所に施すのがポイント。

はコンスタントに少量ずつ肥料を追加して与えていく（追肥）方法が向きます。はじめに与える肥料を元肥といいますが、この元肥は、野菜を植え付ける場所から、やや離れた場所に埋めておくのがおすすめです。野菜は、肥料を探して根を伸ばしていき、やがて、肥料の塊を探した根は、必要な肥料分を吸収しながら育っていくからです。そして、その後は様子を見ながら追肥をして育てます。

この方法なら、容易に多肥を防ぐことができます。具体的な方法を48ページから紹介するので、参考にしてください。有機栽培を続けると、年々土が肥えてきます。そのうえ、畑にはその前に育てた野菜が食べ残した肥料分も残っています。なおのこと、多肥にならないよう、施肥の方法には工夫が必要になります。



液肥を使ってトマトに追肥。液肥を十分に水で薄めておけば、根が肥料焼けすることがない。

03

少なめの元肥で
スタートして
追肥で補っていく
のがコツ

奈良県橿原市
田中寿恭さん
(菜園歴 29 年)
▶▶▶ 18 ページ



01

野菜を観察し、あれこれせずに
シンプルに育てる

千葉県松戸市
町山宏元さん
(菜園歴 10 年) ▶▶▶ 14 ページ



野菜に合わせて、3タイプの
ボカシ肥料を手づくりする

愛知県小牧市
波多野典代さん
(菜園歴 6 年) ▶▶▶ 16 ページ

02

たちの畑を訪問!

いきいき野菜



04

液肥を水やり感覚で与えるのが
コンテナ栽培成功のコツ

東京都板橋区

安藤康夫さん

(菜園歴 4 年) ▶▶▶ 20 ページ

ほんのわずかな肥料でも
おいしい野菜が収穫できる

長野県小川村

下蘭千登世さん

(菜園歴 4 年)

▶▶▶ 22 ページ

05

家庭菜園の達人

有機で育つ

野菜を観察し、あれこれせずに シンプルに野菜を育てる

町山宏元さん 千葉県松戸市 菜園歴10年

発酵鶏ふんと骨粉を 深く埋めて元肥にする

町山宏元さんの家庭菜園を訪ねると、ナス、キュウリが収穫のピークを迎えていた。ともに形がよく、とくにナスはツヤがよい。

ナスの畝は2列。幅80cm、長さ3m、高さは10cm。黒マルチをし、株間50cmの1条に植えてある。町山さんはどんなふうにして肥料を与えているのだろうか。

「まず、かき殻石灰を1㎡あたり1つかみと、米ぬかをうつすらと全面にまいて耕して地ごしらえをします。畝を立てたら、センターに深さ約30cmの溝を掘り、約10ℓの堆肥、発酵鶏ふん3つかみ、骨粉2

つかみを埋めます。これが元肥になります」。

ナスは苗を5月に植え付ける。収穫が始まったなら、追肥は欠かせない。

「追肥は、だいたい月に2回のペースで与えています。ナスの周囲に4か所、マルチに穴をあけて、発酵鶏ふんを入れて土と軽く混ぜておきます。量は1株につき軽く1にぎり。4つの穴に分けて入れます」。これで、肥料切れすることなく、おいしいナスが次々と収穫できる。

トマト、キュウリは、畝の肩に追肥を施し、土寄せして混ぜる。野菜をよく観察し、葉の色が薄く、樹の勢いが衰えたと感じたときも、追肥を与えるそう。



1. 町山さんが畑で使う肥料は、発酵鶏ふん、米ぬか、油かす、骨粉、かき殻石灰、手づくりの液肥。2. 地ごしらえに利用している米ぬか。3. スイカの棚栽培。「ツルの先端が下がり気味になったら、追肥を施す。発酵鶏ふんをバラりとまきます」。4. 半白キュウリ。ナス同様に追肥は欠かせない。5. 夏の日の収穫。



自宅近くの約100坪の畑に常時30種類以上の野菜が育つ。手をかけすぎないのが町山流。